

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

| | |
|-----|------------|
| 局 名 | 農村振興局（北海道） |
|-----|------------|

| | | | |
|-------|---------------------------|--------|-------------------------|
| 都道府県名 | 北海道 | 関係市町村名 | いわみざわし びばいし 岩見沢市、美唄市 |
| 事業名 | 農業競争力強化基盤整備事業 （農地整備事業） | 地区名 | みねいわ 峰岩 |
| 事業主体名 | 北海道 | 事業完了年度 | 平成 27 年度 |

〔事業内容〕
事業目的：

本地区は、空知地方の岩見沢市と美唄市に跨がる地域に位置し、石狩川流域の低平地に広がる農業地帯であり、水稻を中心に水田の畑利用による小麦、大豆、たまねぎを組み合わせた営農が展開されている。

しかし、地区内のほ場は小区画不整形かつ排水不良であり、大型機械の導入が進んでおらず、生産性が低い状態となっていた。また、用排水路は経年劣化が著しく、維持管理に支障が生じていた。

このため、本事業によりほ場の大区画化、排水改良及び用排水路の整備を行い、農業生産性の向上を図るとともに担い手への農地集積を促進し、地域の農業構造の改善等に資する。

受益面積： 182ha

受益者数： 36 人

主要工事： 区画整理 182ha、用水路 12.1km、排水路 6.0km、農道 15.4km、暗渠排水 170ha
客土 170ha

総事業費： 2,914 百万円（決算額）

工 期： 平成 20 年度～平成 27 年度（計画変更：平成 25 年度）

関連事業： 国営かんがい排水事業 空知中央地区、空知中央用水地区

〔項 目〕

1 社会経済情勢の変化

（1）社会情勢の変化

岩見沢市と美唄市の総人口については、平成 17 年と平成 27 年を比較すると 12%低下し、北海道全体の減少率 4%と比べ高い状況となっている。

（北海道全体は H17：5,627,737 人、H27：5,381,733 人）

【人口、世帯数】

| 区分 | 平成 17 年 | 平成 27 年 | 増減率 |
|------|-----------|-----------|------|
| 総人口 | 122,760 人 | 107,534 人 | △12% |
| 総世帯数 | 49,216 戸 | 46,328 戸 | △6% |

（出典：国勢調査）

※平成 18 年に岩見沢市は、栗沢町及び北村と合併しているため、平成 17 年における数値は 3 市町村の合計である。

産業別就業人口については、第 1 次産業の割合が平成 17 年の 11%から平成 27 年の 10%に減少しているが、平成 27 年の北海道全体の割合 7%に比べて高い状況となっている。

【産業別就業人口】

| | 平成 17 年 | | 平成 27 年 | |
|---------|----------|-----|----------|-----|
| | | 割合 | | 割合 |
| 第 1 次産業 | 6,019 人 | 11% | 4,744 人 | 10% |
| 第 2 次産業 | 10,811 人 | 20% | 8,807 人 | 19% |
| 第 3 次産業 | 37,402 人 | 69% | 32,760 人 | 71% |

(出典：国勢調査)

※平成 18 年に岩見沢市は、栗沢町及び北村と合併しているため、平成 17 年における数値は 3 市町村の合計である。

(2) 地域農業の動向

平成 17 年と平成 27 年を比較すると、農家戸数は 32%、農業就業人口は 25%、65 歳以上の農業就業人口は 16%減少しており、認定農業者数も 10%減少している。

一方、農家 1 戸当たりの経営面積は 46%増加している。

| 区分 | 平成 17 年 | 平成 27 年 | 増減率 |
|-----------|-----------|-----------|------|
| 耕地面積 | 29,360ha | 29,220ha | 0% |
| 農家戸数 | 2,398 戸 | 1,634 戸 | △32% |
| 農業就業人口 | 5,054 人 | 3,786 人 | △25% |
| うち 65 歳以上 | 1,568 人 | 1,320 人 | △16% |
| 戸当たり経営面積 | 12.24ha/戸 | 17.88ha/戸 | 46% |
| 認定農業者数 | 1,565 人 | 1,404 人 | △10% |

(出典：農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は岩見沢市及び美唄市調べ)

※平成 18 年に岩見沢市は、栗沢町及び北村と合併しているため、平成 17 年における数値は 3 市町村の合計である。

2 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された用水路及び排水路については、北海土地改良区により草刈りや土砂上げなどが行われており、適正に維持管理されている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

水稲については、水田の畑利用により小麦、大豆等の作付けが増加したことから、計画を下回る作付けとなっているが、小麦、大豆については、区画整理と併せて暗渠排水の整備を行ったことにより乾田化が図られたことから、計画を上回る作付けとなっている。

【作付面積】

(単位：ha)

| 区分 | 事業計画 (平成 25 年) | | 評価時点 (令和 2 年) |
|------|-----------------|------|------------------|
| | 現況 (平成 19 年) | 計画 | |
| 水稲 | 95.7 | 95.3 | 89.1 |
| 小麦 | 58.1 | 57.4 | 58.7 |
| 大豆 | 13.6 | 13.0 | 17.9 |
| たまねぎ | 10.7 | 10.7 | 10.7 |

(出典：事業計画書 (最終計画)、JAみねのぶ聞き取り)

【生産量】

(単位：t)

| 区分 | 事業計画（平成 25 年） | | 評価時点 (令和 2 年) |
|------|-----------------|-------|------------------|
| | 現況 (平成 19 年) | 計画 | |
| 水稲 | 518.7 | 638.5 | 597.0 |
| 小麦 | 197.0 | 278.4 | 284.7 |
| 大豆 | 32.8 | 44.6 | 61.4 |
| たまねぎ | 450.6 | 643.4 | 643.4 |

(出典：事業計画書（最終計画）、JAみねのぶ聞き取り)

【生産額】

(単位：百万円)

| 区分 | 事業計画（平成 25 年） | | 評価時点 (令和 2 年) |
|------|-----------------|-----|------------------|
| | 現況 (平成 19 年) | 計画 | |
| 水稲 | 98 | 121 | 134 |
| 小麦 | 9 | 13 | 10 |
| 大豆 | 4 | 6 | 8 |
| たまねぎ | 77 | 110 | 48 |

(出典：事業計画書（最終計画）、JAみねのぶ聞き取り)

(2) 営農経費の節減

本事業の実施によるほ場の大区画化や排水改良に伴う大型農業機械の導入により、事業実施前と比べ、水稲、小麦及び大豆については労働時間が縮減し、農作業に係る経費が節減されている。たまねぎについては、普及センターの指導により事業計画策定時から施肥や防除回数が増したため労働時間が増している。

【労働時間】

(単位：hr/ha)

| 区分 | 事業計画（平成 25 年） | | 評価時点 (令和 2 年) |
|------|-----------------|-----|------------------|
| | 現況 (平成 19 年) | 計画 | |
| 水稲 | 140 | 91 | 88 |
| 小麦 | 19 | 15 | 12 |
| 大豆 | 55 | 50 | 48 |
| たまねぎ | 203 | 193 | 228 |

(出典：事業計画書（最終計画）、JAみねのぶ聞き取り)

【機械経費】

(単位：千円/ha)

| 区分 | 事業計画（平成 25 年） | | 評価時点 (令和 2 年) |
|------|-----------------|-------|------------------|
| | 現況 (平成 19 年) | 計画 | |
| 水稲 | 1,528 | 415 | 383 |
| 小麦 | 298 | 220 | 192 |
| 大豆 | 220 | 167 | 155 |
| たまねぎ | 1,989 | 1,648 | 1,747 |

(出典：事業計画書（最終計画）、JAみねのぶ聞き取り)

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上

本事業の実施による農業用水の安定供給や排水改良により単収が増加するなど、農業生産性の向上が図られている。

【単収】

(単位：kg/10a)

| 区分 | 事業計画（平成 25 年） | | 評価時点 (令和 2 年) |
|------|-----------------|-------|------------------|
| | 現況 (平成 19 年) | 計画 | |
| 水稲 | 542 | 670 | 670 |
| 小麦 | 339 | 485 | 485 |
| 大豆 | 241 | 343 | 343 |
| たまねぎ | 4,211 | 6,013 | 6,013 |

(出典：事業計画書（最終計画）、JAみねのぶ聞き取り)

(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

① 担い手の体質強化

本事業による農業生産基盤整備に伴い地区内の担い手（認定農業者、農地所有適格法人等）が育成され、事業実施前と比べ増加しているとともに、これら担い手への農地集積も進んでおり、集積面積、集積率及び集約化率ともにほぼ計画どおりとなっている。

【担い手の育成状況】

(単位：人、組織)

| 区分 | 事業計画（平成 25 年） | | 評価時点 (令和 2 年) |
|-----------|-----------------|----|------------------|
| | 現況 (平成 19 年) | 計画 | |
| 認定農業者 | 17 | 22 | 23 |
| 農地所有適格法人等 | 1 | 1 | 1 |

(出典：JAみねのぶ聞き取り)

【担い手の農地集積】

(単位：ha、%)

| 区分 | 事業計画（平成 25 年） | | 評価時点 (令和 2 年) |
|--------|-----------------|-------|------------------|
| | 現況 (平成 19 年) | 計画 | |
| 農地集積面積 | 165.0 | 167.9 | 167.7 |
| 農地集積率 | 88.3 | 89.7 | 89.6 |

(出典：JAみねのぶ聞き取り)

【担い手の農地集約】

(単位：ha、%)

| 区分 | 事業計画（平成 25 年） | | 評価時点 (令和 2 年) |
|---------|-----------------|-------|------------------|
| | 現況 (平成 19 年) | 計画 | |
| 農地集約化面積 | 121.2 | 152.1 | 152.1 |
| 農地集約化率 | 64.8 | 81.2 | 81.2 |

(出典：JAみねのぶ聞き取り)

② 高収益作物の導入

本事業の実施による水田の汎用化により、高収益作物であるたまねぎの増産（生産量は451t→643t（43%増））が図られている。

③ 6次産業化の取組と雇用の創出

水田の汎用化により生産量が増大した大豆を利用し、地域で活動されている「気ままな主婦の会」において、味噌等の加工品が製造され、JAみねのぶ直売所等において販売されている。

(3) 事業による波及的効果等

① 環境保全型農業の取組

本事業により、作物生産の基盤が確保されたため、地区内では、有機質資材の導入や、減農薬、減化学肥料栽培の作物生産が図られており、北のクリーン農作物表示制度「YES!clean」に認定されたハーブ米の栽培や、カバークロープによる化学肥料等の低減に取り組んでいる。

② 地域農業の理解向上に向けた取組

JAみねのぶ主催で、地元小学生を対象とした田植えや稲刈り等の農作業体験を毎年開催しており、地域農業の理解向上につながっている。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

総便益 9,647 百万円

総費用 7,341 百万円

総費用総便益比 1.31

(注) 総費用総便益比方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

本事業で整備された用水路では、受益者自らで地域住民とともに用水路周辺で植栽や花壇作りを行うことにより、地域住民へ用水機能の周知が図られるとともに、生活環境に潤いを与えている。

(2) 自然環境

本地区は、岩見沢市及び美唄市での田園環境整備マスタープランの環境配慮区域に位置しているため、工事の実施に当たり、濁水の排出防止や低騒音・低振動・低排出ガスの重機を使用した。その結果、事業実施前に確認されたエゾウグイ、フクドジョウ等が現在も生息していることが、地元への聞き取りにより確認されている。

6 今後の課題等

本事業によるほ場の大区画化や汎用化により、大規模農業経営に向けた課題が改善され、併せて担い手への農地集積が進んでいる。

今後は、野菜栽培を中心とした農地所有適格法人等や認定農業者の育成や地域の特産品の開発・販売を通じた6次産業化のさらなる推進を行うことにより、所得向上を図るとともに、新たな雇用を創出するなど、地域の活性化を図る必要がある。

事後評価結果

本事業の実施による区画整理、用排水路、暗渠排水等の整備により、大区画化や大型農業機械の導入が進み農作業の効率化が図られるとともに、たまねぎといった高収益作物等の単収が増加するなど生産性が大きく向上している。

また、農地所有適格法人等の担い手への農地集積が促進され、地域農業構造の改善が図られている。

今後は、野菜栽培を中心とした農地所有適格法人等や認定農業者の育成や地域の特産品の開発・販売を通じた6次産業化のさらなる推進を行うことにより、所得向上を図るとともに、新たな雇用の創出により地域の活性化を図る必要がある。

第三者の意見

本事業により、ほ場条件が改善し、大型農業機械の導入が進み農作業の効率化が図られるとともに、たまねぎ等の高収益作物の単収増加がみられるなど、生産性が向上している。また、本事業を通じて担い手への農地集積も着実に進んでおり、地域の農業構造の改善に寄与しているものと認められる。

本地区は入植時の歴史的経緯から、地区内の相互扶助的な結束力が道内でもとりわけ強い地区であり、その特質を活かした様々な取り組みが推進されている。たとえば、水田の汎用化で増産された大豆を利用して味噌等の加工品が製造され、地元直売所等で販売されており、農産物の高付加価値化にも取り組んでいる。

さらに地区内では、北のクリーン農作物表示制度「YES! clean」に認定されたハーブ米の栽培や、カバークロープによる化学肥料の低減など、環境保全型農業にも積極的に取り組んでおり、評価できる。

今後は、これまでの地区の連帯を維持・発展させつつ、野菜栽培を中心とした農地所有適格法人等の設立促進、認定農業者の育成、地域の特産物の開発・販売を通じた所得向上や新たな雇用の創出を進めることで、さらなる地域活性化につなげることが期待される。

農業競争力強化基盤整備事業 峰岩地区 概要図



峰岩地区

美唄市

岩見沢市

道道275号

国道12号

| 凡例 | |
|----|------|
| | 受益区域 |
| | 区画整理 |
| | 用水路 |
| | 市町村界 |

